

●フライブルク市・ヴォーバン地区を視察して

副団長 大塚 啓史

フライブルク市は、環境に対して住民の意識が非常に高く、平成4年にドイツ国内で環境首都として表彰を受けるなど、行政と住民・企業が一体となって環境対策に取り組んでいる。

今回視察したヴォーバン地区は、市の中心部から南へ3kmの位置にある。1994年に戦後フランス軍の元兵営地だった地区をドイツ政府が買い取り、住宅地として市民が参加して作り上げたエコタウンであり、38haの地区に2,000世帯、約5,500人が生活している。

私たちが視察した1月23日は、気温マイナス6度で道端に積雪が残っており、とても寒い日であった。今年は例年になく大寒波の影響で雪の多い寒い冬になっているとのことであったが、今回はヴォーバン地区内を歩きながら施設や公園等の視察を行う中で、質問をさせていただいた。



(説明を受ける視察団)

まず、現地に到着し車を降りたところに地域暖房の施設があった。ヴォーバン地区の地域暖房施設は、木質バイオマスによる発熱装置から全世界帯の建物に

暖房や温水を供給するシステムとなっていた。地域暖房は、エネルギーの効率化はもちろん、各世帯で個別の暖房装置を取り付けることや設備を設置する必要がないことから、コストも安価であるなどの利点があるようだ。

そのほか、冬場のエネルギー消費を抑えるために、建物では日差しを最大限に取り入れている。そして、屋根の上には、屋上緑化またはソーラー発電の設備を設置し、住宅から発生するCO₂を大幅に削減している。



(街の中心を走るトラムの駅)

ヴォーバン地区内には、自宅前に駐車場がなく自動車に依存しない住宅地になっている。その代わりに街の中心をトラムが走っており、中心市街地までは10分程度で通常時の運行間隔は約7～8分、停留所も

約400mごとに3カ所あり、住む人が自動車よりも公共交通や自転車を利用する方が便利のような造りになっていた。また、家の前には車庫ではなく自転車の駐輪場が設置されていた。

そして、カーシェアリングが充実しており、地域内の道路端のスペース（駐車場）にはカーシェアリング用の車を多く見かけた。

車を所有する人は、地区の端にある集合駐車場に車を止めるようになっており、年間18,000ユーロの料金を支払わなければならないようになっている。なお、特別な場合に限り、団地内に車を入れることができるようであった。

そして、地区内では車両の通行規制があり、車は通り抜けすることができな

い構造になっている。また、中心の大きな道に対して徐行が義務付けられているU字型の道路があり、子どもが車を気にせず、安心して遊ぶことができるチャイルドプレイストリートになっている。

4階建ての集合住宅は、原色が塗られた建物や木の板をそのまま張り合わせたデザインの建物となっており、ツタなどで緑化もされていた。家の前の庭にも緑が多く植えられているほか、道路の端にもわずかな傾斜があり雨水の通り道が作られていた。

また地区内には、緑の帯と呼ばれる住民の声を生かした5つの公園があり、世代別に楽しめる場所になっていた。また、トラムの軌道部分にも芝生を植え、地下に雨水を貯水するようになっており、線路が継ぎ目になっていることでアスファルト舗装に比べて走行中の音も静かになっていた。

ヴォーバン地区では、それぞれの個性を尊重し、エネルギーを賢く使う街づくりをしていた。街に緑が溢れ、子どもたちの遊び場がいたる所に作られており、視察中にも乳母車を押して散歩をしている数人の若い母親を見かけるなど、住んでいる人たちの愛情が感じられる地区となっていた。

今回、初めて海外視察団に参加させていただき、貴重な経験を積むことができた。今後の環境対策や住宅政策等にしっかり生かしていきたいと思う。



(カーシェアリング用の駐車スペース)

最後に、視察にご尽力いただいた皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



(トラムを前に集合写真)